



巫女の舞

古代からの歴史を紡ぐ
味美白山神社

二子町の巫女さん 南花長町の巫女さん

春日井市味美地区の二子町にある白山神社は古代の二子山古墳に起源を持ち、神社の建立は今から360年以上前の万治2年(1659年)と伝えられています。そして、例年開催されている秋の大祭は、宝暦6年(1756年)に始まりました。今でも白山神社では一年に数多くの祭事が執り行われ、その内4度の祭事で小学生による巫女の舞が奉納されています。令和4年の最初の巻頭特集では、地元の伝統を受け継ぎ、神前で舞うために稽古に取り組む巫女さんたちの奮闘ぶりや成長をお届けします。

「祭り元」が担う 白山神社の歴史

白山神社は味美地区11町内の人々が氏子として、お守りしてきました。そんな歴史を背景に10月の大祭後から翌年の大祭までの1年間、祭事のお世話をする「祭り元」を11の町が持ち回りで担っています。令和2年から3年の10月までの祭り元は二子町でした。氏子総代長を水野哲雄さん、祭礼委員長を佐藤一孝さんが務め、味美連合会区の11町内を代表して二子町が祭事を取り切りました。

そして、宮司は平成31年4月から河村佳生さんが就任し、全ての祭事を執り行っています。



二子町 神楽保存会

白山神社に対する想いを河村宮司にお話ししていただきました。「白山神社は味美地区の町民の皆さんに支えられ歴史を数えてきました。その中でも祭り元は素晴らしい制度で、地域の結びつきを神社と共に育んできたと思います。そんな大切なものを残しつつ、時代と共に変える勇氣も必要だと感じています。地元の人たちと話し合いながら、皆さんに親しまれる神社を目指していきたいです」



宮司 河村佳生さん



味美連合区長 丹羽一正さん



氏子総代長 水野哲雄さん

2年にわたる

巫女の稽古

白山神社の神事に欠かせないのが巫女さんです。巫女は毎年祭り元の町内から選ばれます。そして、巫女の舞いの演奏をする神楽も祭り元の役目です。二子町の神楽保存会会長の小川高正さんを始めたとした楽人の皆さんは、11年に一度の演奏のために稽古をし続け、技を磨いていると言っても過言ではありません。

二子町の巫女の舞いの稽古開始は、町内が祭り元を担う3カ月前の令和2年7月でした。前年の祭り元の中新町の先輩巫女の稽古を見学するところから始まり、数か月後のお秋祭では「剣の舞」「神楽くずし」という2曲の舞いを披露しなければなりません。

舞いの指導をするのは、長年にわたり味美の各町内会がお世話になっている西本町在住の安藤好美先生です。コロナ禍で稽古日程が限られる中、稽古当日だけではなく自宅での反復練習が欠かせません。指先の動きから足の運び方まで、稽古の指導を思い出しながら猛特訓の日々が続きました。先生の指導ぶりと子どもたち

の頑張りや、二子町の巫女世話を務めた生井幸美さんは「11年前に娘が巫女をさせていただいたご縁で世話人をお受けしました。不安なことばかりのスタートでしたが、娘の時と同様に安藤先生の的確な指導のおかげで少しずつ舞いが完成していった時はとても嬉しかったです。真剣に稽古に取り組んだ子どもたちの頑張りはもちろん、保護者の皆さんのサポートがあったからこそだと思えます」とたたえています。

二子町から南花長町へ

二子町の次の祭り元は南花長町です。令和3年の夏、二子町がそうであったように南花長町の巫女が稽古を開始する時が来ました。そして7月の総天王祭を最後に、二子町の巫女は8月のお秋祭と10月の前夜祭・大祭で披露する「浦安の舞」の稽古に入ります。

剣の舞と神楽くずしが演奏のリズムで舞うのと違い、浦安の舞はその歌詞の言葉を節目として舞いを覚えます。最初は全く曲と合わず、舞っている間に曲が終わってしまうことも度々ありました。それでも威力を発揮したのは、またしても自宅

白山神社の歴史を引き継ぐのは子どもたち

での特訓と皆で集まっていた自主練習です。先輩巫女として恥ずかしくない舞いを披露しようと、南花長町の巫女さんとの合同稽古も大きな刺激になったようです。稽古の最終日には安藤先生からも褒めの言葉をいただき、10月の前夜祭と大祭では完璧な「浦安の舞」になりました。

大祭の役目を無事に終えた巫女の保護者の皆さんからは「子どもたちが、巫女の舞いを通じて心を合わせるこの大切さや祈りを捧げることの意味を学んだと思います。これからも地域の大事な文化や風習が未来に引き継がれることを期待しています」とコメントをいただきました。子どもたちの成長が何よりも嬉しかったようです。

そして、この経験により一番大きなものを得たのは巫女さんたち自身でした。地域の歴史に触れ、未知の世界を体験した彼女たちは、費やした時間の何倍もの宝物をつかんだのではな

いでしょか。

巫女の舞いについて河村宮司は「他の神社に向く機会が多くありますが、白山神社の巫女の舞いは格段に『きれい』で、安藤先生やお世話をされる方の意識の高さが表れていると思います。神楽の演奏とともに巫女の舞いは白山神社の誇りです。お宮参りや安産祈願にお越しになる方の中には、子どもの時に巫女さんをしたと懐かしそうに話される方もいます」と話していただきました。

更に白山神社400年に向けて「子どもたちが気軽に遊びに来られる場所になりたいです。お年寄りの散歩道になっていると同じように、子どもたちの生活の一部になることを願っています。遷座400年を迎えた時に、神社を支えているのは今の子どもたちなんです」と未来を見据え、話を結ばれました。



白山神社
〒486-0955 春日井市二子町2-11-3
http://ajiyoshi-hakusanjinja.com/

味美の歴史を後世に

味美という地名が生まれてから130年以上たちますが、残念ながらその歴史をまとめたものはありません。そこで、味美連合区長の丹羽一正さんの呼びかけにより、「味美区誌」を編纂し後世にその歴史を伝えることになりました。古代の二子山古墳を始めとした味美古墳群、地元農業を支えた木津用水、上街道や白山神社の歴史から身近な商店街や風習まで、11町内の編集委員が令和5年3月の発刊に向け活動を開始しました。

その機運を盛り上げるために、下記の日程で「楽しく学べる 味美の歴史」と題し講演会を開催します。小学生以上なら誰でも聴講できますので、お気軽にお越しください。

講演会「楽しく学べる 味美の歴史」
日時：令和3年1月23日(日) 13:30(開場13:00)
場所：味美ふれあいセンター
講師：岩田鎮人氏(郷土史研究者・元中学校長)

主催：味美連合会・味美区誌編纂委員会
後援：春日井市教育委員会・中日新聞社・味美ネットワーク
問い合わせ先：味美連合会 石黒(090-3968-1816)



武田 玲香さん

私は巫女というあまり経験できないことができて、すごく嬉しかったです。この2年間のことは一生忘れません。



祖父江 いぶきさん

練習はつらかったけど、やってよかったです。神事という大切なことに関われたことが、将来につながると考えたからです。



吉田 莉心愛さん

コロナ禍で稽古をするのは大変だったけど、安藤先生や町内の人たちの協力があって無事成功することができました。



山田 優奈さん

浦安の舞はとても難しかったけど、上手にできるようになると楽しくなりました。大祭の後は達成感でいっぱいになりました。